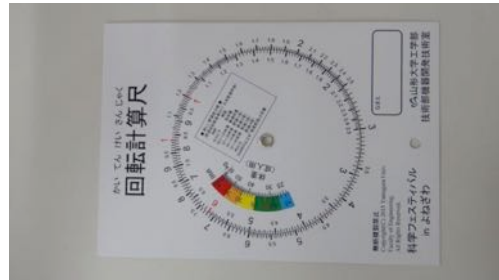


科学フェスティバル in 米沢 2018 報告

技術部調整連絡担当 大竹哲也

日 時：平成30年7月28日（土）・29日（日）
会 場：山形大学 工学部キャンパス 4号館

7月28日（土）・29日（日）の二日間にわたり、「科学フェスティバル in よねざわ 2018」が本学米沢キャンパスにおいて開催された。技術部からは多くの技術職員が実行委員，ガイドブック担当，ホームページ担当，写真記録担当，会場設営担当として運営に尽力している。今回の科学フェスティバルの参加ブース数は40ブースとなり，会場の規模から考えるとちょうどいい数である。技術部からは機器開発技術室に参加を依頼し，「紙の計算機をつくろう」のテーマで出展を行った。乗除算ができる簡易回転計算尺を組立てて，アナログ計算機を体験してもらう内容である。計算尺は現在あまり使われていないが，1970年代までは乗除算，関数計算のできる計算用具として技術者に愛用されたアナログ計算機である。映画「風立ちぬ」において，飛行機設計の計算に使われているシーンを見ることができる。また使用用途に特化した計算尺が作られ，現在でも様々な計算尺が生産されている。ただし一般の方の目につくところでの使用は殆どないため，科学フェスティバルに参加した児童や生徒はもちろん，付き添いの保護者も初見の方がほとんどであろう。年配の方が懐かしそうに手に取っていたのが印象に残った。ブースには各種計算尺のほか，手回しタイガー計算機もあわせて展示されていた。回転計算尺の円盤をハトメで台紙に固定する作業で，小さな子は力加減が難しいようだったが繰り返しているうちにコツを掴んで行く様子が見られた。作った計算尺を使って，数字の組み合わせで計算できることに興味を持つ参加者が多かった。28日は71名，29日は64名と，二日間の展示で135名に工作してもらい体験してもらうことができた。技術部からのブース参加は各技術室のローテーションで出展するため，順番が回って来たときのために事前の準備をお願いしたい。



実行委員（技術部関係）：佐藤和昭（副実施責任者），水口敬（ガイドブック担当），鈴木裕幸（ホームページ担当），三浦信一（記録担当），大竹哲也（技術部調整連絡）
ガイドブック編集：水口敬，下竹悠史，水沼里美（技術部広報部会）
写真記録：三浦信一，相澤悠樹，高橋尚矢，佐藤早徒（情報技術室）
ブース出展：鈴木貴彦，井元滝，小泉隆行，上浦圭太（機器開発技術室）